

「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」 事業報告書

団 体 名	スマホ教室 in 小樽の町内会実行委員会			
事 業 名	ZOOM や LINE で繋がる町内会に！スマホ教室 in 小樽の町内会			
実 施 期 間	令和5年6月10日 ～ 令和6年1月6日			
事業の目的	・若者と高齢者が LINE グループや ZOOM を通じて会話ができるようになると、容易に町会から若者に対して、町内会活動の情報を提供して参加者を呼び掛けることや、地域住民の困りごとを解決する若者を募集できる。また逆に、若者が町会に対して、若者が提案した活動への参加を呼び掛けることで、様々な行事に相互参加して地域コミュニティを活性化させることが目的である。			
実 施 額	事業費	195, 094円	助成額	213, 000円
事業内容	● スマホ教室 in ○○町会 令和3年度から継続している事業。町会内に住む高齢者にスマホの操作を教えるばかりではなく、参加者同士で LINE グループを立ち上げて、いつでも大学生と町会の皆さんが連絡を取り合える親密な関係を構築することを目的としている。 今年度、予約なしに気軽に立ち寄れるように、入船六三町会・松ヶ枝町会・桂岡では町会行事と連携したスマホ教室の開催を試みた。入船六三町会では住吉神社例大祭に合わせて実施する子供神輿行脚の日に、松ヶ枝町会では地域イベント「マツガエベース」開催日に、桂岡町会では防災訓練当日に実施した。防災訓練ではコイルの活用を検討したが災害マップで代用可能と判断したため活用には至らなかった。 また、小樽警察署から特殊詐欺防止にスマホ教室を活用してほしいとの要望があり、1月6日新潮町会に署員をお招きして、参加者とともに特殊詐欺の手口を学び、不審なメッセージが届いた場合は画面をスクショして LINE グループに投稿することで大学生に相談できる体制を構築した。 ● スマホ教室 ジュニアインストラクター 松ヶ枝中学校から2名、北陵中学校から4名、未来創造高校から1名がジュニアインストラクターとして、スマホ教室に参加した。事前に中高生だけを集めてスマホ教室で行う作業を説明するのではなく、スマホ教室の現場において大学生のサポートを受けながら高齢者にスマホの操作を教える手法(オンジョブ)で養成を試みた。 ● スマホ教室 シニアインストラクター 6月24日新潮町会で開催したスマホ教室では、佐々木会長にパソコンで ZOOM を使えるように指導した。会長が学生スタッフの作成したテキストを用いて友人に説明したところ、パソコンで ZOOM を使えるようになった。 ● スマホ教室 in 杜のつどい 町会以外の老人クラブでスマホ教室を開催した。産業会館まで足を運ぶ活発な高齢者が多いせいか、今年度最多の22名が参加した。			

◎事業の日程について

開催日	参加	会場／町会行事
① 6/10（土）	8名	入船六三町会
② 6/24（土）午前	14名	新潮町会
② 6/24（土）午後	8名	新潮町会
③ 7/15（土）	2名	入船六三町会／住吉神社例大祭子供神輿行脚
④ 8/26（土）	15名	東小樽町会
⑤ 8/30(水)	22名	杜のつどい
⑥ 9/3(日)	14名	桂岡町会／防災ウィーク
⑦ 9/9(土)	8名	松ヶ枝町会／マツガエベース
⑧ 9/14(木)	5名	花園町会
⑨ 9/23(土)午前	7名	真栄町会
⑩ 9/23（土）午後	8名	潮見台町会
⑪ 11/19（土）午前	17名	長和町会
⑫ 11/19（土）午後	15名	石山町会・豊川町会合同
⑬ 1/6（土）	10名	新潮町会／新春交流会・小樽警察署との意見交換
	153名	

◎事業評価について

1. 事業の目的の達成度

今年度目標の開催10回参加者100名を大きく上回る開催13回参加者153名を達成した。この取り組みが拡大した理由は、小樽市総連合町会事務局とスマホ教室を実施した町会長など役員の皆さまの呼びかけにあり、ご尽力いただいた関係者には感謝を申し上げたい。

今年度試みたジュニアインストラクターの養成は、興味を持ってくれる学生を発掘できたものの継続してスマホ教室に参加するまでには至っていない。日頃から学校や生徒会との連携が不可欠に感じたため、松ヶ枝中学校に出向いて主張授業を行い、また同校及び北陵中学校に出向いて学習支援を行うなど積極的にコンタクトしている。今後中高生にとって、スマホ教室が高齢者支援だけではなく、お兄さんやお姉さんと一緒に活動できる楽しい企画にすることで継続率を高めたい。

また、事業採択時に審査員からご意見をいただいた「事業をきっかけに町内会と若者の世代間交流がどれだけ進んだか」については、桂岡町会から防災訓練のサポートを依頼されたことや、真栄町会とは共同で小学生以下を対象にした「雪かき雪遊びゲーム大会」を開催したことや、潮見台町会では国際スポーツ雪かき選手権の受け入れが決定するなど、大きな成果を収めることができおり、私たちが目指す地域コミュニティの活性化に大きく貢献することができている。

デジタル庁が進めるデジタル共生社会を実現するためには、デジタルに慣れた若者など身近な者の手助け、すなわち地域コミュニティを活性化することが必要不可欠であり、世代間のデジタルデバインド解消を掲げるスマホ教室が担う役割は重要であると考えます。

2. 参加した方々や、周辺の方々の満足度

特にアンケートを取得してはいないが参加者の様子を見る限り、スマホの操作ができる喜び以外にも、孫と同じ世代の大学生と談笑できることにも喜びを感じているようである。スマホ操作を我が子に尋ねても煩がられてしまうと嘆く参加者もいて、親身に教えてくれる大学生には感謝しているようだ。高齢者は一度操作をマスターしてもすぐに忘れてしまうため、家に帰ってからも操作できるようにとイラストを描いてもたせるなど工夫を凝らしている。このような心配りに感謝する高齢者もいたようだ。以下、学生リーダーの原田さんに寄せられた感想である。

- ・スマホが楽しくなった。
- ・定期的にやってほしい。
- ・昔懐かしい友とメールできるようになった。人生に楽しみが一つ増えたことに感謝している。
- ・前は〇〇さんにお世話になりました、今回もよろしくお願いします。
- ・携帯ショップで教わると何か勧められるのではないかと不安だが、町内の方がいて、学生に教わるので安心して参加できた。
- ・商業目的でない学生が教えることと、知っている町内会で開催してくれるのがよかった。

3. 今後の事業について

今後はスマホ教室だけに留まらず、町内会に中高生や子育て世代などを呼び込む多世代交流事業へと発展させ、さらなる地域コミュニティの活性化を目指す。

引き続き、スマホ教室で講師として活躍した札幌学院大学まちおこし研究会が中心となって、今年度から取組を始めたジュニアインストラクター・シニアインストラクターの育成や警察と連携した特殊詐欺防止の指導などデジタル共生社会実現に向けた活動に加えて、子育て世代や子供たちを招いたお菓子づくり体験、雪遊びなど屋外での運動、祭りやイベントなど町内会行事への参画など地域コミュニティの活性化に向けた活動を行う予定。